

野尻湖柱状試料の粒度からみた湖水面変動

Lake-level changes in Lake Nojiri, shown in grain size composition of cored sediments

中村 祐貴 [1]; 井内 美郎 [2]; 青木 優作 [1]; 滝口 健 [3]; 中西 俊貴 [4]

Yuki Nakamura[1]; Yoshio Inouchi[2]; Yusaku Aoki[1]; Takeshi Takiguchi[3]; Toshiki Nakanishi[4]

[1] 早大・人科・環境; [2] 早大 人間科学部; [3] 早大・人科・情報; [4] 早大 人科科学部

[1] Human Sciences, Waseda Univ.; [2] Human, Waseda Univ.; [3] Humanscience, Waseda Univ.; [4] Human Sciences, Waseda Univ.

野尻湖では音波探査記録をもとに過去3 - 4万年間に数メートル以上に及ぶ湖水面変動があったと推定されている。しかし、堆積物のデータからそれを裏付ける結果はこれまで示されてこなかった。今回我々は野尻湖湖底から4本の短い堆積物コアを採取し、粒度分析を行い、表層堆積物の水深別粒度分布を明らかにしてコア試料に示される湖水面変動の記録を検討した。その結果、2回以上の湖水面低下があった可能性を見出した。